

シンポジウム講演録

『地理学の役割と応用』

シンポジウムの開催について

吉越昭久*

立命館大学では、1998年6月末、文部省に文学部地理学科（夜間主コース）の設置を申請した。これが認可になれば、翌年の4月には、夜間に定員40名の地理学科（地域・景観・環境コース）が新たにできることとなる。文学部地理学科では、この申請に先立ち、5月16日に立命館大学清心館において、『地理学の役割と応用』をテーマとするシンポジウムを開催した。演者は全て地理学界以外から招き、地理学の役割や、どのような分野で応用できるかについて議論をするという、多少異質なシンポジウムであった。他分野との交流をめざすシンポジウムについて、かねてよりこのような企画をしてみたいという気持ちを抱いていたものが、ようやく実現できた。

演者は、佛総合計画機構代表取締役社長、近藤正廣氏、京都府文化学術研究都市推進室長、井上正嗣氏、西宮市情報センター所長、吉田稔氏の三氏で、本学文学部の須原美士雄教授がオーガナイザーをつとめた。シンポジウムの参加者は、地理学科の学生を中心に、他学部の学生、大学院生、地元の方など100名を越した。シンポジウムの内容は、以下に掲載した通りである。

シンポジウムで議論された内容は、地理学界にいる者にとっては、多少耳の痛いこともあったが、受け入れるべき点多かった。また、別の視点からみた新しい発見もあった。新設する夜間主の地理学科だけでなく、昼間主の地理学科においても、これらの指摘に応えうるような教育・研究を展開していかなければならないことはいままでもない。その意味でも、非常に意義のあるシンポジウムであった。演者の三氏には、心より御礼申し上げる次第である。

* 立命館大学文学部